

白山ふるさと文学賞

第十一回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生5・6年の部 優秀賞

「お母さんは不思議な人」

松任小学校六年 石伊 奏音

私のお母さんは、とてもやさしく、とても不思議な人です。私にとってお母さんは、いなくてはならない大切な存在です。

お母さんは、仕事でつかれて帰ってきてもいつもやさしくしてくれます。ごはんを作ったり、洗たく物をほしたり、そうじをしたりしてくれます。そして、私がつかれていると元気になるように楽しませてくれます。

そんなお母さんをおこらせてしまったことがあります。友達と遊ぶことになったある日、お母さんに

「五時までなら遊んでいいよ。」

と言われ、私は、

「ありがとう。五時までね。」

と答えました。そして、友達と遊んでいたのですが、時計を見ずに遊んでいたため、気づいた時には五時二十五分でした。私は友達に

「やばい！約束の時間、過ぎとった！先に帰るね。」

とだけ伝えると、急いで走って家まで帰りました。家に着くと、五時四十分位になっていました。私は、とっさにあやまりました。すると、お母さんは、

「心配したやん。」

とだけ言いました。私には何が何だかわかりませんでした。お母さんは、それ以上なにも言わず、だまっていました。私は、もう一度あやまった方がいいのかどうか、どうすればよいのか分からず、悩みましたが、何度も何度もあやまりました。すると、お母さんは、

「次は約束を守ってね。」

と言って私をゆるしてくれました。その後も私は、部屋でうずくまり、一人で泣いていました。楽しいことを考えても忘れられず、泣き続けました。心の中で、「約束を守らない私なんていらぬ存在なのかな」と思いながら泣きました。しかし、よくよく考えてみると、お母さんは私のことを必要としてくれているからこそ、心配してくれたのかも

しれないという思いが心に浮かびました。そう考えると、少しずつ前向きな気持ちになることができました。

お母さんは、私が習っているトランポリンの練習を、暑い日も、寒い日も見守ってくれています。トランポリンの台出しも重くて大変だろうし、パソコンを使って必要なことを書いた紙も作らなくてはいけないし、大変なことばかりだと思うのに、いつも練習時間は見ていてくれ、応援もしてくれます。そして

「落ち着いてー。」

「つま先をもつとのばすよ。」

などのアドバイスもしてくれます。遠くの会場で行われる大会にも必ず来て、見守ってくれています。私はトランポリンが好きなので練習して上手になれる習い事の時間がうれしいけど、お母さんにとっては大変なことばかりでつかれると思います。それでも、お母さんは、私のトランポリンを習い続けたいという気持ちが分かっているから、大変な中でも習い事をさせてくれているのだと思います。とつてもやさしい人だと思えます。

そんなお母さんの一番良いところは、楽しませ、笑顔にしてくれるところです。お母さんは、一緒にどこかへ遊びに行くと、私が楽しめるように、

「何をしたい？」

と聞き、私が言ったお店に連れて行ってくれたり、私が言ったことをしてくれたりして、楽しませてくれます。お母さんの「何をしたい？」に対して、私が「分らない」と言っても、私がいつもほしいと言っていた物や私が好きな物が売っているお店に行つて楽しませてくれます。そして、私を笑顔にするために、お母さん自身が笑顔で私に接してくれれます。私を楽しませて笑顔にし、ほめて笑顔にし、一緒に遊んで笑顔にしてくれます。

私はお母さんのような人になりたいです。お母さんのように、やさ

しくて、すごくて、みんなを元気に笑顔にできる人になりたいです。お母さんのような人になるために私はこれから「少しずつ」ということを意識して過ごしていきたいです。初めからこんなにすごいお母さんと同じ事はできないと思うから、少しずつまねをして、少しずつ手伝って教えてもらえば、お母さんみたいな人に近づけると思います。これから「少しずつ」お母さんのような人を目指してがんばっていきます。

